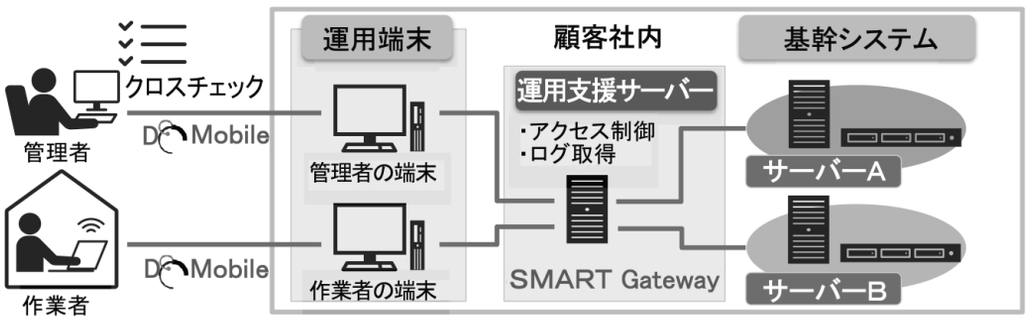
電波新聞

テレワーク向けシステム運用支援ソリューションの構築例



社内でのみ実施していたシステム運用作業を、同じ運用レベルで、テレワーク化

(出所:日立ソリューションズ・クリエイト)

情報システム部門のシステム運用業務

在宅勤務でも実現

日立ソリューションズ・クリエイトが仕組み開発

日立ソリューションズ・クリエイトは、テレワークが難しい企業の情報システム部門におけるシステム運用業務を、在宅勤務でも実現できる仕組みを開発した。基幹システムなどの更改やクロスチェックが必要な業務などでも、社内作業と同等レベルの運用ができるようになる。19日から本格展開を始めた。

提案を本格化した「テレワーク向けシステム運用支援ソリューション」は、情報システムの運用を在宅勤務でも実現できるようにした。この仕組みは、一般的に社内専用端末で操作する基幹システムを安全に在宅から遠隔でつないで操作できるようにするとともに、不正操作の防止や管理者と作業者のクロスチェックをできるようにする。

コマンド設定などで不正操作抑制

管理者と作業者が操作画面を共有

安全で確実

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、急きょ在宅勤務を導入した企業は多い。半面でセキュリティや管理上の問題から在宅勤務やテレワークができない事業部門があることも事実。特に情報システムの運用業務を手がける部門は、システムの安定稼働とセキュリティの確保の観点から出社するケースが多い。

デジタルトランスフォーメーション事業部セキュリティビジネス本部セキュリティソリューション部・虎熊克部長は「コロナ禍であっても金融をはじめ、公共や製造など、システム運用部隊は出社して対応している」と話している。

発売したソリューションは、システム運用部門のテレワーク化を支援するために開発した。

このソリューションは、社内にある運用端末と基幹システムの間に運用支援サーバーを設置し、このサーバー上で入力できないコマンドの設定などにより不正な操作を抑制したり、管理者と作業者が操作画面を共有したりする。運用支援サーバーには、システムの操作監視や制御、インターネット分離などができるボスコ・テクノロジーズ製の「スマート・ゲートウェイ(GW)」を採用。社内の運用端末の操作には、安全に遠隔操作ができる独自のリモートアクセスシステム「DoMobile(ドゥ・モバイル)」を使う。

スマートGWは「通信を全て記録でき、エージェントレスで運用支援ができる特徴がある」(佐藤英輝主任技師)。新ソリューションでは、スマートGWとドゥ・モバイルを組み合わせることで、在宅勤務でも安全で確実なシステム運用ができるようになる。

一般的にスマートGWは中大規模システム運用などを想定して高額だったが、今回はテレワークを速やかに進められるよう、管理サーバー数40台以下であれば低コストで導入できるようにした。テレワーク5人、管理対象サーバー20台の場合で初期費用が109万円(ドゥ・モバイル込み、ハードとOS別)になる。

虎熊部長は「テレワーク環境でも社内と同じシステム操作ができるようになるため、幅広く訴求していく」と話しており、業種などを問わずテレワークによる安全なシステム運用を求める企業に提案していく計画だ。初年度は20社の導入を目指し今後3年で1億円規模の事業にしていく。

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。